

金沢市が観光都市として発展するためのシミュレーション 新たな観光資源開発による経済波及効果の計測

藤澤ゼミ 2017 年度卒業 A.N

1. はじめに

2015 年に開通した北陸新幹線の効果により、金沢市には多くの観光客が訪れている。しかしながら、主要観光地の密集・都心からのアクセスの良さを理由に、観光客の多くは日帰りが多いため、このままでは北陸新幹線効果は失速するという意見もある。他方で、主要観光地とそれ以外の観光地の来場者数を比較すると約最大 73 倍もの差があることから、新たな観光資源を開発することによって、北陸新幹線効果の失速を抑えられると考えた。

2. 目的

まだ注目を浴びていない観光資源の開発によって観光客の増加だけでなく、滞在時間・リピート客の増加が見込めると考え、金沢市が観光都市として発展できると仮定した。本研究の目的は、その際の経済波及効果を推測し、観光都市としての発展の是非を検証することである。具体的には、シミュレーションで導いた最終需要をもとに、産業連関分析を行う。

3. 分析方法

本研究では、先行研究の土井・浅利・中野(1996)を参考に、以下の手順で行った。

①シミュレーション条件を設定し、最終需要を算出する。

- ・観光客は兼六園個人旅行者の 1%(469 人)
- ・大野・金石エリアを日帰りで巡る
- ・観光客の巡るルートやその際にかかる消費例を 5 つの項目に分けて自分で設定

②その際の経済波及効果を推測する。

③②の結果をもとに、考察を行う。

4. シミュレーション結果と考察

①最終需要である観光消費額は、1 人当たり 17,450 円、合計で約 2 億 5,000 万円となった。

表 1: 生産誘発額の内訳 (円)

	生産誘発額		
	第一次	第二次	計
合計	174,321,000	42,291,000	216,612,000

出典：いしかわ統計指標ランド「経済波及効果簡易分析ツール」を参考に作成

②観光消費額合計の約 0.87 倍にもなる約 2 億 1,600 万円もの生産誘発効果を得られることが明らかになった(表 1)。部門別経済波及効果では、観光に深い関わりのある商業やサービスが全体的に大きいことから、さらに土産屋や飲食店などの観光売上高が大きくなることが分かった。また、第二次波及効果では不動産が大きいことから、テナント貸出率の増加や新規店舗の増加が見込めると分かった。その結果、雇用誘発人数は 22 人となった。

③本研究では大野・金石エリアに限定したが、観光業は他産業への影響が大きいことから、他の観光エリアでも同様に波及効果は大きくなると考える。しかしながら、これらの地域は北鉄バス一日乗車券範囲外であるため、範囲内に指定し、観光客集客が容易になればさらなる効果が見込める。

5. おわりに

観光業による波及効果が大きいと確認できたことから、本研究の仮説は立証された。さらに本研究においては、兼六園個人旅行来場者の 1%に設定したが、観光客が増加すれば波及効果は大きくなる。金沢市の観光資源が増えることで、滞在時間・リピート客の増加が見込める。

本研究では、新たな観光資源を開発することを前提としているが、注目を浴びていない観光地の問題点として、交通機関の不便・主要観光地からの距離が挙げられる。新たな観光資源の PR 促進や観光客をそのエリアに運ぶための手段を増やすことなどの対策が必要となる。

<参考文献等>

- ・金沢市統計データ集『金沢市統計書(平成 28 年度版)』「14. 教育・文化・観光」(アクセス日: 2017 年 12 月 10 日)
- ・土井英二・浅利一郎・中野親徳(1996)「はじめよう地域産業連関分析」日本評論社
- ・いしかわ統計指標ランド「平成 23 年(2011 年)石川県産業連関表」経済波及効果簡易分析ツール[統合大分類(108 部門)]
<http://toukei.pref.ishikawa.jp/search/detail.asp?id=3212> (アクセス日: 2017 年 12 月 1 日)